

会社の概要

会社名	東洋合成工業株式会社
本社	東京都台東区浅草橋1丁目22番16号 ヒューリック浅草橋ビル8階
設立	1954年9月27日
資本金	1,618,888,703円
従業員数	728名(2021年3月31日現在)
事業内容	・ディスプレイ(液晶並びに有機EL)用、並びに半 導体用として各露光波長に対応した(紫外線、 KrF、ArF、EUV各世代)感光材、ポリマー製品 ・半導体・電子材料向け高純度合成溶剤、香料向 け化学品、液体化学品の保管管理・物流倉庫業
ホームページ	https://www.toyogosei.co.jp/

役員

(2021年6月24日現在)

代表取締役社長	木村 有仁	常勤監査役	森 寧
常務取締役	出来 彰	監査役	宮崎 誠**
取締役	平澤 聡美		越山 滋雄**
	渡瀬 夏生		
	鳥井 宗朝*		*社外取締役
	松尾 時雄*		**社外監査役

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	3月31日 中間配当を実施するときは9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、 予め公告いたします。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL https://www.toyogosei.co.jp/ir/koukoku.html ただし、電子公告によることができない事故 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 株式の諸手続き	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 口座を開設されている証券会社までお問い 合わせください。 特別口座をご利用の株主様は、みずほ証券 株式会社およびみずほ信託銀行株式会社 0120-288-324(フリーダイヤル)までお問 い合わせください。



〒111-0053 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号
ヒューリック浅草橋ビル8階
TEL 03-5822-6170 FAX 03-5822-6189
E-mail : ir@toyogosei.co.jp



第71回定時株主総会決議ご通知

当社第71回定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されました。

報告事項

第71期(2020年4月1日から2021年3月31日まで)事業報告および計算書類の内容報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 取締役6名選任の件**
本件は、原案のとおり承認可決され、取締役に木村有仁、出来彰、平澤聡美、渡瀬夏生、鳥井宗朝*、松尾時雄*の6名が選任され、それぞれ就任いたしました。
*社外取締役
- 第2号議案 監査役1名選任の件**
本件は、原案のとおり承認可決され、監査役に森寧が選任されました。
- 第3号議案 補欠監査役1名選任の件**
本件は、原案のとおり承認可決され、補欠監査役に萩原正一が選任されました。
- 第4号議案 退任取締役に対する退職慰労金贈呈の件**
本件は、原案のとおり、第71回定時株主総会終結の時をもって退任された取締役宮澤貴士氏に対し、在任中の労に報いるため、当社の定める一定の基準に従い、退職慰労金を贈呈する旨、承認可決されました。併せて具体的な金額、贈呈の時期、方法等は取締役会に一任されました。
- 第5号議案 役員賞与支給の件**
本件は、原案のとおり、当事業年度末時点の取締役6名(うち社外取締役1名)および監査役3名(うち社外監査役2名)に対し、当事業年度の業績等を勘案して、役員賞与総額47,940千円を支給することとし、各取締役及び各監査役に対する金額は、取締役については取締役会に、監査役については監査役の協議に一任することで承認可決されました。



第71期 報告書

2020年4月1日 ▶ 2021年3月31日



業績ハイライト

■決算概要

当期は、一年を通じて新型コロナウイルス感染症の拡大影響による景気の先行きに不透明な状況が続いたものの、電子材料、香料市場を中心に好調に推移しました。特に、先端半導体向け感光材および高純度溶剤の販売が増加しました。また香料市場は、海外販売が増加しました。この結果、売上高は前期比11.1%増の27,164百万円となりました。営業利益は、同34.6%増の2,939百万円、経常利益は、同44.6%増の2,982百万円、当期純利益は、同26.6%増の2,345百万円となりました。

	前期比
売上高	27,164百万円 +11.1%
営業利益	2,939百万円 +34.6%
経常利益	2,982百万円 +44.6%
当期純利益	2,345百万円 +26.6%

■当期のポイント

- POINT 1** 半導体・電子材料の旺盛な需要を背景に売上高、営業利益、経常利益、当期純利益すべてにおいて、過去最高を更新。
- POINT 2** 感光性材料セグメントは、先端半導体およびディスプレイ向け感光材、ポリマーの販売増加により、生産能力増強に伴う費用の増加分を吸収し、増収・増益。
- POINT 3** 化成品セグメントは、電子材料向けおよび海外香料メーカーへの販売が増加。ロジスティックは当期前半に化学品の荷動き量が減少したものの、後半は回復し、増収・増益。

業績概要

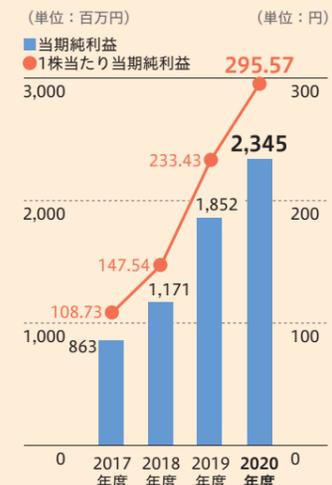
売上高



営業利益/経常利益



当期純利益/1株当たり当期純利益



総資産/純資産



トップメッセージ

更なる供給拡大と企業価値向上に 全社一丸となり取り組んでまいります。



代表取締役社長
木村 有仁

当期の決算概要

当期は、米国や中国では雇用や個人消費が回復基調であるものの、欧州では回復に停滞感が見られました。一方国内は、緊急事態宣言が発出されるなど一年を通じて新型コロナウイルス感染症の拡大の影響が続き、

また、電子材料業界においては、世界的な感染症の拡大防止対策に伴う在宅勤務の拡大による通信・データセンターおよびPC向け需要拡大に加え、5G対応スマートフォンの普及開始やゲーム機向けの巣ごもり需要などで、先端領域を中心に好調が続き、香料材料関連も安定的に拡大しました。

以上のような結果、当期決算は、売上高27,164百万円(前期比+2,708百万円、+11.1%)、営業利益2,939百万円(同+754百万円、+34.6%)、経常利益2,982百万円(同+920百万円、+44.6%)、当期純利益2,345百万円(同+493百万円、+26.6%)となり、売上高、利益面すべてにおいて、過去最高を更新しました。

セグメント別概況

感光性材料セグメントは、世界的な感染症の拡大防止対策に伴う在宅勤務の拡大による通信・データセンターおよびPC向け需要拡大に加え、5G対応スマートフォンの普及開始やゲーム機向けの巣ごもり需要などもあり、全体として先端半導体、ディスプレイの高い需要が継続いたしました。また、自動車産業等の復調による半導体需要も急激に回復が見られ、感光材、ポリマーともに全領域での販売が非常に好調となりました。今後の技術進化に対応するための新規材料の研究開発、製造技術開発、品質管理の高度化、生産性の向上、生産能力増強を着実に進め、高品質製品の安定供給に努めてまいります。

化成品セグメントの電子材料関連は、世界的な感染症の拡大防止対策に伴う在宅勤務の拡大による通信・データセンターおよび政府が進める「GIGAスクール構想」によるPC向け需要拡大に加え、5G対応スマートフォンの普及開始やゲーム機向けの巣ごもり需要などにより、売上は増加しました。香料材料関連は、トイレタリー製品向けの合成香料は堅調に推移しました。また、品質の安定化および安定供給に努めたことに加え、海外の香料メーカーを中心に売上は増加しました。感染症の影響で、当事業年度の前半

において国内の化学品需要が鈍化し荷動き量に落ち込みが見られたものの、後半にかけては回復しました。さらに、顧客満足度向上に努めた結果、タンク契約率は引き続き高水準で推移しました。

今後も積極的な拡販と生産性向上に取り組んでまいります。

中期計画「TGC300」の進捗

当期は、5カ年の中期経営計画「TGC300」の3年目となりました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う不透明な状況が続くなか、感染症拡大防止対策に伴う在宅勤務の拡大等による半導体、電子材料関連の需要増加や、香料材料関連も堅調に推移したことにより、当期業績予想値比では売上高+4.5%、経常利益+19.3%の超過と好調に推移しております。経常利益、経常利益率は各々29.8億円、10.9%とTGC300のターゲット値30億円、10%以上をほぼ達成しておりますが、今後も電子材料関連の需要は継続的に拡大する見込みであるため、更なる供給拡大を目指し未来への布石を打ち、全社一丸となって取り組んでまいります。

株主還元について

株主の皆さまへの還元につきましては、安定配当の維持を基本としつつ、業績、配当性向、財務バランスなどを総合的に勘案して決定しております。これらの方針を踏まえ、当期の配当は、期初計画通り、1株当たり年間20円とし、次期はTGC300の目標値超過が見込まれることから、年間配当30円の計画とさせていただきます。今後も、事業成長のための投資と、財務バランスとを勘案しつつ、社業の拡大とともに、株主の皆さまへの還元を行っていきたいと考えております。

今後の見通し

新型コロナウイルスのワクチン接種も進みつつあり、世界経済は回復傾向ではあるものの、国内では緊急事態宣言が再発出されるなど先行き不透明な状況が継続しております。当社では総力をあげ、従業員およびステークホルダーの皆さまの感染症対策や安全を最優先に、事業への影響を最小限に留めてまいります。

電子材料関連では、米中政府の通信・半導体分野への政策的支援やPC・通信インフラ・データセンター等の需要拡大を背景に、大手先端半導体製造会社の積極的な設備投資は加速しており、感光性材料、高純度溶剤などの継続的な需要拡大を見込んでおります。香料材料関連においては、引き続きトイレタリー製品用途を中心として世界的に緩やかな拡大が続くと予測しております。

以上を踏まえ次期業績予想は、売上高30,000百万円、営業利益3,550百万円(当期比+610百万円、+20.7%)、経常利益3,400百万円(当期比+417百万円、+14.0%)、当期純利益2,400百万円(当期比+54百万円、+2.3%)、年間配当30円とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、何卒、当社にご理解を賜り、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年6月

木村 有仁

セグメント情報

感光性材料セグメント

業績の概況



世界的な感染症の拡大防止対策に伴う在宅勤務の拡大による通信・データセンターおよびPC向け需要拡大に加え、5G対応スマートフォンの普及開始やゲーム機向けの巣ごもり需要などもあり、全体として先端半導体、ディスプレイの高い需要が継続しました。また、自動車産業等の復調による半導体需要も急激に回復が見られ、感光材、ポリマーともに全領域での販売が非常に好調となりました。

この結果、同セグメントの売上高は15,976百万円(前期比+1,759百万円、+12.4%)、営業利益は1,823百万円(同+257百万円、+16.5%)となりました。

化成品セグメント

業績の概況



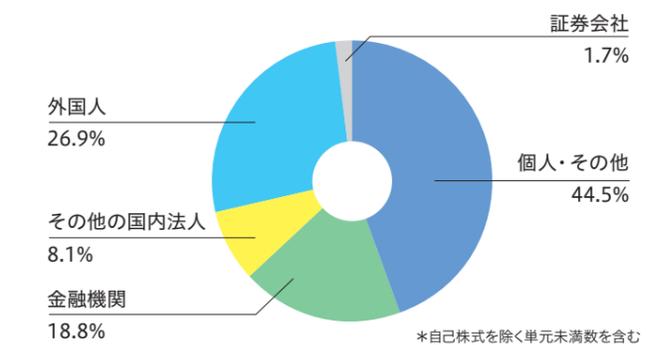
電子材料関連は、通信・データセンターおよびPC向け需要拡大に加え、5G対応スマートフォンの普及開始やゲーム機向けの巣ごもり需要などにより、売上は増加しました。香料材料関連は、販路拡充により海外の香料メーカーを中心に売上は増加しました。ロジスティック関連は、当期前半に化学品の荷動き量が減少したものの、後半は回復しました。さらに、タンク契約率は引き続き高水準で推移しております。

この結果、同セグメントの売上高は11,187百万円(前期比+948百万円、+9.3%)、営業利益は1,115百万円(同+496百万円、+80.3%)となりました。

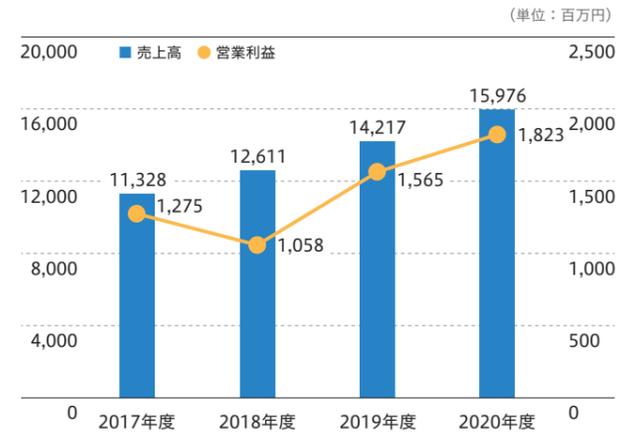
株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	4,503名

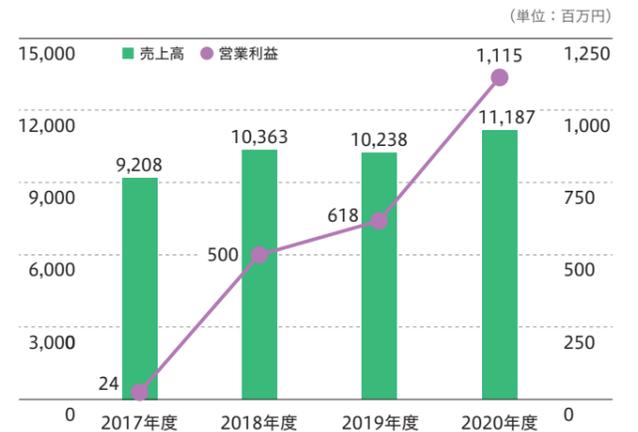
株式の分布状況



売上高および営業利益の推移



売上高および営業利益の推移



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
木村 有仁	1,094	13.8
木村 愛理	583	7.3
株式会社千葉銀行	298	3.8
株式会社きらぼし銀行	298	3.8
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	248	3.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	224	2.8
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	216	2.7
木村 正子	205	2.6
株式会社 TG ホールディング	200	2.5
公益財団法人東洋合成記念財団	200	2.5

当社は、自己株式を206千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。また、持株比率は自己株式(206千株)を除外して計算しております。